

# あだ・うだ・じげじまん

## 第5回 私の思い出

若い時には「なぎなた」を極め、現在はちぎり絵が生きがい。

いつまでも挑戦する気持ちを失わない長谷川艶子さん（上菅）に、昔の思い出などを聞きました。



写真を見ながら思い出を語る長谷川さん

### 忘れられない大切な出会いの数々

私は大正12年生まれ。生まれも育ちも上菅で、家は旅館を営んでいました。夢は従軍看護師。京都医大に行きたかったんです。

根雨の女学校に通学していたころ、担任の先生に「なぎなた」の方へ進むよう言

われ、なぎなたの師範の道へ進むことに。昭和16年に京都へ1年間習いに行きました。

学校を終え、根雨高校に師範として赴任した翌年に、太平洋戦争が始まりました。戦争中は、空襲警報が鳴ると授業は中断。1時間や2時間で1日の授業が終わることもたびたびでし

た。私は終戦と同時に教師を辞めました。

当時の思い出は、歌人の早川幾忠先生と、彫刻家の辻晋堂先生と一緒に生徒を教えたこと。早川先生はとにかく話し好きでしたし、辻先生は無口な人でした。

私は絵を描くことが好きで、辻先生に私のスケッチブックを見てもらい、教わることができたことは良い思い出です。

そうそう、根雨高校時代は洋画家の木山義喬（根雨出身）先生とも一緒だったんですよ。先生がアメリカにいたところの話は楽しかったです。

### 伝えていきたい

#### ふるさとの習わし

小学生の時、荒神原と上



菅福神社の「みこ舞」の様子（右が長谷川さん）

菅駅前で行われる盆踊り大会が楽しみでした。浴衣を作ってもらい、各地区で踊りの練習をして、本番に臨んでいたことを覚えています。くじも配っていて楽しみの一つでした。

そのほか、菅福神社の春祈禱や宮ごもりなどもありました。また、上菅は昔から「ほとほと」が盛んで、家が水浸しになるほど、水がかけてられました。

今は、行事などが少なくなり残念ですが、今の皆さんたちには、少しでも続けてほしいです

### ちぎり絵との出会い

今、私の生きがいは「ちぎり絵」です。町公民館活動で、平野流ちぎり絵の平

野滋子さんに教わったのが始まりでした。風景や写真のほか、本や絵などを参考にして創作活動を行っています。

私は指導を受けて5年目に指導者としての免許を取り、今でもグループを教えていることが、18年続いている理由ですかね。昨年は、上菅の蔵美術館で個展をさせてもらいました。春にはグループで展示させてもらう計画です。

今でも、ちぎり絵は難しいものだと感じています。年を取ると作品に迫力がなくなつたような気がしますが、やめたいとは思いません。ちぎり絵のために通信教育で水彩画を学んでみました。次は、絵手紙にも挑戦してみようと思っ



色とりどりの和紙を使ったちぎり絵

▶春には蔵美術館で、上菅の仲間たちと「ちぎり絵」展を開催する予定です。



活発な意見交換が行われる

## 今後のまちづくりに期待

まちづくり意見交換会開催

町の財政状況や、今後のまちづくりに関する意見交換を行う「まちづくり意見交換会」を12月21日に山村開発センターで、12月22日に町公民館で開催しました。

2会場で延べ約50人が出席。今年度新たに直した財政推計の見直しや財政健全化の課題であった「健全化団体」を脱却したこと、現在策定中の第5次総合計画の素案概要などを説明しました。

参加者からは空き家や観光振興など町を元気にしたいという思いの詰まった提案が出され、説明を省略せざるを得ないほど活発な意見交換が行われました。



左から松岡さん、松本さん、足羽さん

## 夢をかなえてほしい セルプひのが絵馬を贈呈

高校受験を迎える町内の中学3年生に、夢をかなえてほしい、地元を忘れないでほしいという思いで、障がい者の授産施設セルプひの（田子功司所長）が絵馬を贈りました。

絵馬は同施設の職員と利用者の手作りで、金持神社で取り扱っている縁起物として好評を受けています。

12月19日、日野中学校で行われた贈呈式では、利用者代表の松岡恭二さんが、3年生代表の足羽秀吉さんと松本美紀さんに手渡しました。

松岡さんは「あと3カ月になりました。良い巣立ちをし、自分探しの旅に行ってください」と3年生に夢をかなえてほしい気持ちのエールを贈りました。

▼あなたの声や地域・職場での話題をお寄せください。★役場企画政策課まで（電話72・0332）

## キラリ輝く地域の力

黒坂3区竹灯籠・金持神社常夜祭



設置した竹灯籠に灯りがともされる

12月31日の大みそかから元旦にかけて、黒坂3区自治会（西古尚史自治会長）が聖神社に手作りの竹灯籠70本を点灯。雪が積もった参道は幻想的な雰囲気になりました。地域を元気にしたいと昨年から設置された竹灯籠を見ようと、地区内外から多くの人が訪れました。

また、金持神社では、12月31日の大みそかから元旦にかけて夜通し参拝客を迎えようと、町観光協会（小谷澄男会長）が、常夜祭を行いました。金持神社参道には石灯籠が点灯されたほか、札所（売店）も開けられ、新年が開けるのを待つ県内外から訪れた多くの参拝者でにぎわいました。

## ふるさとの味と心を全国へ 地元の味、ふるさと便を発送



会員らはもち、米、こんにゃくなどを丁寧に箱詰め

町外に住む人たちに、日野町の特産品などを届ける『ふるさと便』の発送作業が、12月22日、山村開発センターで行われました。

これはニコニコ朝市グループ（大下恵代表）が24年前に朝市を始めから続けているもので、今年は関西を中心に全国から183個の申し込みがあり、会員らは心を込めて箱に詰めていました。

代表の大下さんは「生産者の名前を見て、懐かしがってもらっています。申し込んでくださった人の口コミで年々数が増え、ありがたいです。今年は特別栽培米を詰めました。喜んでもらえるはず」と、発送される箱を笑顔で見送りました。